

日本フンボルト協会 2025年度第2回常務理事会 議事次第

日 時：8月1日（金）19時半から21時まで（予定）

形 態：Zoom オンライン会議

出席者：縣理事長、高山副理事長（関西支部）、細野副理事長、田口正樹副理事長
井田 良、香田芳樹（関東甲信越支部）、岡林 洋、須田利美（東北支部）
高橋宗五、種村眞幸、卜部匡司（中四国支部）、遠藤 歩（九州支部）
櫻田嘉章（顧問）、広渡清吾（顧問）、伏木信次（顧問）
事務局 関映子

欠席：居城邦治（北海道支部）、守矢健一、鰐田武志、和田肇（中部支部）山本敬三

《議 題》

（1）常務理事の所掌について（資料1）

（2）2025年度総会について（報告）

- ・6月14日（土）ハイブリッド方式で開催
対面式会場：京都大学本部キャンパス
法経済学部本館 1 階西端「法経第 11 教室」
- ・参加者は 対面式 18名 オンライン45名 講演会には DAAD 参加者 10名

プログラム 1.	13:15-14:00	合同常務理事会・理事会 (2025年度の改選)
2.	14:00-15:00	2025年度会員総会事務協議
3.	15:00-16:00	講演会：吉田直紀 会員 (2024年度シーボルト賞受賞者)
*現在、YouTube に掲載中。		
4.	16:00-16:20	新理事会 (理事長、副理事長、常務理事の選任)
5.	16:30-18:00	懇親会 (21名)

（3）2026年度総会について・講演会について

例年通り、6月初旬、中旬に開催予定

ドイツ大使に講演を依頼済

プログラムの中で新理事会開催のタイミングについて、反省

（4）日独共同研究奨学金について

●今年の採用状況報告

課 題： 日本人女性のキリスト教改宗と規範性の形成：女性のグローバル法制史
(1540年代-1630年代)

課 題： 月面探査機材料への帯電粒子の付着特性

8月半ばに Urkunde を授与の予定。奨学金は日本人共同研究者を介して、渡す予定。

- ドイツ人研究者の正確な情報、ドイツでの勤務先などの情報を得るべきとの指摘があった。
- 2026年度奨学金選考について 募集開始は？ 選考委員は6名、今後依頼する。

(5) 伊藤荒川基金の募集の進め方（資料2）

すでに200万円のご寄付が納入されている。

7月9日にSchildtさん、Lieblangさんに縣理事長がZoomで内容の説明をした。

直近の帰国者への協会加入要請、及び助成金のお知らせ

過去5年間（2021年以降に）の帰国者に対して助成金の知らせ

審査委員6名は確定している。

(6) 2025年度のドイツ研究奨学金説明会の開催について（資料3）

*合格者が増えているという報告がフンボルト財団Lieblangさんから届いている。

*新事務総長についても記載されている。

★鰐田先生より開催日程は未定とのこと。

(7) 支部活動について（各支部の今年の予定について）

（北海道支部）

「2025年10月31日（金）に北海道大学内でドイツ留学説明会とともに支部総会を開催する予定です。」

（中部支部より）

1. 幹事会開催（2025. 7. 4）本年度の活動方針を相談

1. 25年度総会 11月頃開催予定

ドイツ在外研究報告 報告者（予定）：斎藤晃（名古屋大学未来材料・システム研究所教授）総会、懇談会

1. 上川内あずさ先生（名古屋大学理学部生命理学科教授）公開講演の件

2025年度猿橋賞受賞「虫脳における聴覚情報処理原理の解明」 現在交渉中

（東北支部より）

1) 2024年度は東北支部総会を開催できなかった。

2) ドイツ留学説明会のアナウンスを東北大学全体に通知した。

3) 2025年度は支部総会を開催するとともに、延期されていたフンボルト賞受賞者、大塚孝治先生（東大名誉教授）の特別講演会を開催したい。その後、12月6日（土）に総会開催決定。

(8) 日本フンボルト協会の会計について（事務局より）

《年会費の支払い状況》 ゆうちょ銀行に335名 三菱UFJ銀行に57名

みずほ銀行に36名、三井住友に38名 合計466名が支払い済。

会員数が1,306名であり、納入率は35パーセント

(9) これまでのHGJの行事のまとめ作成中（縣理事長）

2013年以降のHGJの軌跡を、表形式にて、総会・特別講演会、オンライン講演会、留学説明会、日独共同研究奨学金、伊藤荒川基金助成金、各支部活動、Humboldt-Kolloquium、Humboldt-Kolleg等に関して、時系列で一覧表を作る。ここで、HGJの主活動を振り返り、改めて年会費納入の重要性を強調し、協力を強く要請する。それをどこに掲載するか？

(10) その他

●今後のZoom討論会について（高山副理事長）

・生成AIに関するZoom講演会

2024年5月13日に実施した第二回に続き、年度内に1-2回の講演会を企画する。

現在のところ以下の通り、予定されている。

オンライン講演会（AIシリーズ）

・第4回「AIと著作権」 2025年9月6日（土）14時から

登壇者1：潮海 久雄 会員（筑波大学）

登壇者2：狩野 芳伸 氏（静岡大学）

司会：高山 佳奈子 会員（京都大学）

・第5回（2025年度後半に予定）「AIと文化財」

登壇者1：高野 紗奈江 氏（京都大学）

登壇者2：河野 俊行 会員（九州大学）

司会：高山 佳奈子 会員（京都大学）

●2025年度のシーボルト賞受賞平野圭一先生について

（会員になっていただく、そして講演会の予定）

●ニューズレターの今後のデジタル化について

（2025年度号はこの常務理事会の結果も掲載して、メールで配信）

●長期未納者の扱い 12月の常務理事会で検討する

●伊藤眞前理事長の一周忌の会として、筑波大学同僚の方々が開催（6月21日）

板橋区成増のレストランにて

●次回の常務理事会開催日程と時間 拡大評議委員会を開催する件の検討

=====

以上

(資料1)

日本フンボルト協会常務理事会委員（所掌）

（2025 年総会～2027 年総会まで）

2025 年 8 月 1 日

理 事 長： 縣 公一郎

副理事長： 高山佳奈子 ドイツ研究留学説明会

細野 眞 日独共同研究奨学金・伊藤荒川基金助成金選考委員長

田口 正樹 企画委員長（講演会・Zoom 討論会等担当）、基金担当

常務理事： 井田 良 会計（財政安定化基金、寄付口座担当）

岡林 洋 企画委員

高橋 宗五 日独共同研究奨学金選考委員

種村 眞幸 HP 委員長

鏑田 武志 ドイツ研究留学説明会、日独共同研究奨学金選考委員

守矢 健一 記録、HP 委員

山本 敬三 企画委員、日独共同研究奨学金選考委員

支部長（常務理事）：居城 邦治（北海道支部）、HP 委員、ドイツ研究留学説明会

須田 利美（東北支部）

香田 芳樹（関東甲信越支部）、記録

和田 肇（中部支部）

高山佳奈子（関西支部）、副理事長、ドイツ研究留学説明会

卜部 匡司（中四国支部）

遠藤 歩（九州支部）、HP 委員

(資料2)

伊藤荒川基金助成金制度創設のお知らせ、及びご応募のお願い

2021 年以降ドイツ留学からご帰国の Humboldtianer*innen の皆様

拝啓 時下益々ご清祥のことと存じ、お慶び申し上げます。

日本フンボルト協会（HGJ）では、2025 年度から、伊藤荒川基金を創設して、毎年過去 5 年間にドイツ留学から帰国された Humboldtianer*innen の方々に、1 件 50 万円、毎年 4 件の助成金を支給することと為りました。同基金は、本協会第三代伊藤眞理事長のご遺志、そして伊藤先生のご学友であられる荒川雄行様のご厚情に依り設立され、お二人のお名前を冠した制度でございます。同助成金の目的は、Humboldtianer*innen としてご留学中に構築されたドイツを中心とした学術ネットワークを、更に維持・拡充して頂くために、微額ながら支援させて頂くことです。同封の実施要項をご参照の程、お願い申し上げます。

この助成金への応募には、**応募締切日から遡って 5 年以内にドイツ留学から帰国された方々が有資格者であられ**、例えば 2025 年度ですと、2026 年 3 月締切ですので、2021 年以降に帰国された方々が対象と為ります。よって、**2026 年度以降、有資格者の範囲は一年ずつシフトすることと為ります。**

以上に鑑みまして、**ご経歴をご考慮下さり、是非適時伊藤荒川基金助成金へのご応募をご検討頂ければ、幸甚に存じます。**何卒宜しくご高配の程、お願い申し上げます。猛暑の候、お体大切に、お元気で益々のご研鑽を収められますよう。敬具

2025 年 7 月 20 日

日本フンボルト協会理事長

縣 公一郎

伊藤・荒川基金助成金（日独若手交流助成金）実施要綱
Leitlinie zur Förderung des Austausches zwischen Japanischen und Deutschen
Nachwuchswissenschaftler*innen durch den Fonds ITOH/ARAKAWA

1. (名称)

本助成金は、日本フンボルト協会第三代 伊藤眞理事長により、生前、ご学友であり篤志出資者である荒川雄行氏とのご協力にて、日独若手交流促進の具体的助成制度が構想されていたことに因み、伊藤・荒川基金助成金（日独若手交流助成金）と称する。ドイツ名は、Förderung des Austausches zwischen Japanischen und Deutschen Nachwuchswissenschaftler*innen durch den Fonds ITOH/ARAKAWA とする。

2. (目的)

本助成金の目的は、毎年新たにフンボルト研究奨学金を受給することとなった日本人が、学術分野を問わず、ドイツ現地で研究展開する上で、学術ネットワークの構築と拡大を図ることへの助成である。日独学術交流は固より、現地での他国研究者との交流をも促進して、国際的学術交流の充実を図ることによって、日本人学術成果の国際的貢献度向上を目指すものである。

3. (申請資格と助成対象)

(1) 本助成金への申請資格者は、公募開始日から遡り 5 年以内にフンボルト研究奨学金の受給を決定された者である。

(2) 本助成金において、助成対象者として一度採用された者は、再度助成を受けることは出来ない。過去の助成対象者は、本協会の日独共同研究奨学金への申請者となることも出来ない。

4. (申請方法)

申請資格者は、所定の申請書類に必要事項を記入の上、毎年度末 3 月 31 日までに、日本フンボルト協会（事務局）に助成金申請書を提出する。

5. (選考方法と決定)

(1) 日本フンボルト協会理事長は、常務理事 1 名を選考委員長として、学術分野に応じて、若干名の理事等から構成される選考委員会を設置し、同選考委員会が、毎年度助成対象者の選考を行う。

(2) 常務理事会は選考委員会の推薦に基づいて、助成金を支給する助成対象者を決定する。

6. (助成規模)

助成対象 1 件につき、50 万円を支給し、一年度間に 4 件までを助成対象とする。上記目的の実現に向け、助成対象者は、助成金の使途を自由に決定できる。助成金の費消は、助成金支給後一年以内とする。

7. (申請書類)

申請書類は、以下の内容を伴うものとする。

- a. 申請者履歴書・研究業績一覧
- b. フンボルト研究奨学金支給証書コピー
- c. 研究標題、及び研究目的・手法・内容

d. ドイツ現地研究展開上でのネットワーク構築・学術交流計画

8. (審査基準)

選考委員会規定（内規）にて定める。

9. (審査結果の公表)

審査結果は、常務理事会で決定した後、理事会及び会員総会に報告し、申請者に通知する。

10. (研究実施報告)

助成金費消期間終了後 6 か月以内に、助成対象者は、A4 判一枚程度の研究・交流実施報告書を日本フンボルト協会理事長あてに提出する。

2025 年度日程

2025 年 10 月

公募開始

2026 年 3 月 31 日

申請書類締切

2026 年 5 月末

選考完了

2026 年 6 月

助成対象者公表・助成金支給

2027 年 6 月

助成金費消期間終了

2027 年 12 月

研究・交流実施報告書提出

以 上

2025.06.18

(資料3)

Lieber Herr Professor Agata, liebe Frau Seki,

es war sehr schön, dass ich vor Kurzem die Gelegenheit hatte, Sie beide persönlich in Tokyo zu treffen. Das ist schon etwas Besonderes.

Bitte entschuldigen Sie meine verspätete Rückmeldung, nach meiner Rückkehr hatte ich Urlaub und komme erst nach und nach dazu, alles zu beantworten. Ich bitte um Ihr freundliches Verständnis.

Wir sprachen bei unserem Lunch über das Henriette Herz Scouting Programm, den neuen Generalsekretär der Stiftung Dr. Markus Zanner und die neuesten Verleihungszahlen aus Japan für das Humboldt-Forschungsstipendium. In dieser E-Mail schicke ich Ihnen wie besprochen, ein paar Informationen zu diesen Themen. Wenn ich etwas vergessen habe, worüber wir gesprochen haben und was Sie ebenfalls interessiert, lassen Sie es mich bitte wissen.

Seit dem 1. Mai 2025 ist Herr Dr. Markus Zanner der neue Generalsekretär der Stiftung. Er war zuvor Kanzler der Technischen Universität Nürnberg. [Hier](#) können Sie mehr Informationen dazu lesen.

Im Jahr 2024 hatten wir mit 38 Bewerbungen für das Humboldt-Forschungsstipendium so viele Bewerbungen aus Japan, wie seit 5 Jahren nicht mehr. Das hat uns sehr gefreut. 10 Stipendien wurden verliehen. Dazu erhielten im Jahr 2023, 2024 und im Jahr 2025 (Stand Juni) jeweils eine Person ein Humboldt-Forschungsstipendium über das Henriette Herz Scouting Programm. Zwei Frauen (2023, 2024) und ein Mann (2025) wurden bisher ausgewählt. Mit dem Henriette Herz-Scouting-Programm (HHSP) eröffnet die Alexander von Humboldt-Stiftung seit 2020 die Möglichkeit, einen alternativen, direkten Zugang zum renommierten Humboldt-Forschungsstipendium. Erfolgreiche Wissenschaftlerinnen und Wissenschaftler in Deutschland können sich im Rahmen des neuen Henriette Herz-Scouting-Programms der Alexander von Humboldt-Stiftung um die Position eines Scouts bewerben. Als Humboldt-Scouts können sie bis zu drei internationale Wunschkoooperationspartner direkt mit einem Humboldt-Forschungsstipendium für eine Zusammenarbeit nach Deutschland holen. So sollen stark umworbene, beispielsweise auf besonders nachgefragten Fachgebieten tätige Forschende gewonnen werden. Gleichzeitig soll der Anteil der im Humboldt-Forschungsstipendienprogramm geförderten Frauen erhöht werden. Denn das erste der jeweils drei Stipendien soll an eine Wissenschaftlerin gehen. [Hier](#) können Sie mehr über das Programm lesen.

Im Anhang schicke ich Ihnen die Liste aller aus Japan ausgewählten Stipendiat*innen und Preisträger*innen aus dem Jahr 2024 und aus der ersten Auswahlrunde für 2025. Die 3 Personen, die über das HHSP-Programm ausgewählt wurden, sind auch enthalten und entsprechend gekennzeichnet.

Mit freundlichen Grüßen aus Bonn

i.A./ pp. Franziska Lieblang



Alexander von
HUMBOLDT
STIFTUNG

Alexander von Humboldt-Stiftung

Abteilung Förderung und Netzwerk/ Departm

先日、東京で皆様とお会いする機会をいただき、大変嬉しく思っております。これは本当に特別なことでした。

返信が遅れてしまい、申し訳ございません。帰国後、休暇を取っていたため、少しずつ返信を進めているところです。ご理解いただけますと幸いです。

ランチの際、ヘンリエッテ・ヘルツ・スカウティング・プログラム、財団の新事務局長であるマークス・ツァナー博士、そして日本からのフンボルト研究奨学金の最新授与数について話し合いました。このメールでは、話し合った通り、これらのテーマに関するいくつかの情報を送付いたします。もし、私たちが話し合った内容で、ご興味のあることを私が忘れていた場合は、お手数ですがお知らせください。

2025年5月1日より、マークス・ツァナー博士が財団の新事務局長に就任しました。彼は以前、ニュルンベルク工科大学の学長を務めていました。詳細はこちらでご確認いただけます。

2024年には、フンボルト研究奨学金に38件の応募があり、これは5年間で最も多い応募件数でした。私たちはこれを大変嬉しく思っています。10件の奨学金が授与されました。さらに、2023年、2024年、2025年（6月現在）には、それぞれ1名がヘンリエッテ・ヘルツ・スカウティング・プログラムを通じてフンボルト研究奨学金を受賞しました。これまでに、女性2名（2023年、2024年）と男性1名（2025年）が選出されています。アレクサンダー・フォン・フンボルト財団は、2020年からヘンリエッテ・ヘルツ・スカウティング・プログラム（HHSP）を通じて、著名なフンボルト研究奨学金への代替的な直接アクセス手段を提供しています。ドイツで成功を収めている研究者は、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の新しいヘンリエッテ・ヘルツ・スカウティング・プログラムを通じて、スカウトのポジションに応募できます。フンボルト・スカウトとして、彼らは最大3人の国際的な協力パートナーを、フンボルト研究奨学金を利用してドイツに招くことができます。これにより、特に需要の高い分野で活躍する研究者を獲得することが目的です。同時に、フンボルト研究奨学金プログラムで支援される女性の割合を増やすことも目的としています。なぜなら、3つの奨学金のうち最初の1つは女性研究者に授与されるからです。プログラムの詳細はこちらでご確認いただけます。

別紙に、2024年および2025年の第1次選考で日本から選出された奨学生および受賞者のリストを同封いたします。HHSPプログラムを通じて選出された3名も含まれており、適切にマークされています。

ボンより、敬具
代理/ フランツィスカ・リーブラング

アレクサンダー・フォン・フンボルト財団
助成部門